

地域の課題 研究者も考えます

20

ICT・交通



情報学研究科 遠藤 守准教授

教育現場で活用機運



長野県須坂市を拠点に行った、地域づくりプロジェクトの様子

今からちょうど十年前の二〇一一年、筆者にとって初めてタブレット端末用の教育アプリを開発したのが、松阪市立三雲中学校での取り組みだった。

三雲中学校は県内中学校における唯一のモデル校として文部科学省から指定され、報告会などのイベント開催時には、県内各所から先生方が集まり大変活況だったことを鮮明に覚えている。

それから十年、新型コロナウイルス感染症の影響により、はからずも学校現場におけるICT（情報通信技術）利活用の機運が「GIGAスクール構想」として再燃しつつある。その内容は端末やインフラ整備だけでなく、数科目を横断したり地域との連携

オープンデータ 地域一体で

が求められるなど、十年前では考えられなかった生徒自身によるICT活用に焦点が当たっている。

筆者は三雲中学校での経験からまもなく、自身の地元である長野県須坂市と市内小学校とで、ICTを活用した地域づくりのプロジェクトを始めた。本プロジェクトは、社会に流通する情報の活用を促進するための「オープンデータ」の仕組みを地域一体で進める点に特徴がある。

オープンデータの取り組みは松阪市でも市役所を中心に進められていて、情報の公開者のクレジット（氏名やライセンス）さえ明示すれば、事前の許可なく自由に活用できるといふ仕組みだ。

筆者は次世代の担い手である学生の皆さんが情報端末とオープンデータを駆使して「デジタル社会」を創ってゆくーそんな未来を夢見ている。